

令和4年度 第1回

小国町総合教育会議会議録

小国町

令和4年度第1回小国町総合教育会議会議録

1. 召集年月日 令和4年8月30日(火)
1. 召集の場所 おぐに町民センター301号室
1. 開 会 午前10時00分
1. 閉 会 午前11時20分
1. 出席構成員
- | | |
|---------|----------|
| 小国町長 | 渡邊 誠次 君 |
| 小国町教育委員 | 田代 篤雄 君 |
| 小国町教育委員 | 梅田 聖子 君 |
| 小国町教育委員 | 千明 和浩 君 |
| 小国町教育委員 | 高村 さつき 君 |
| 小国町教育長 | 麻生 廣文 君 |
1. 欠席構成員 な し
1. 傍 聴 者 な し
1. 説明のため出席した職員の職氏名
- | | |
|-------------|---------|
| 小国中学校長 | 狭間 卓史 君 |
| 小国小学校長 | 堺 昭博 君 |
| 総務課長 | 佐藤 則和 君 |
| 教育委員会事務局長 | 久野 由美 君 |
| 総務課課長補佐 | 松本 徳幸 君 |
| 教育委員会事務局次長 | 後藤 栄二 君 |
| 教育委員会教育指導委員 | 村上 悦郎 君 |
1. 会議内容 別紙「令和4年度第1回小国町総合教育会議次第」のとおり

会議の経過及び顛末

1. 開 会

事務局：松本総務課課長補佐

2. 町長挨拶

構成員：渡邊町長より挨拶

3. 教育長挨拶

構成員：麻生教育長より挨拶

4. 出席者紹介

別紙「令和4年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿」のとおり

5. 協議事項

構成員：渡邊町長が小国町総合教育会議設置要綱により議長となり、議事を進行する。

1) 令和4年度「小国の教育チャレンジプラン」の検証について

2) 令和5年度の取り組みについて

麻生教育長、狭間小国中学校長、堺小国小学校長が資料により説明

構成委員意見

千明教育委員：現在は、All For The Nextというすばらしい理念を掲げ日々子どもたちのために行動し、考え、判断いただいていることに非常に感謝しております。

今日は、御提案とご質問というかたちで御用意させていただきました。

まず提案ですが、2024年に北里柴三郎博士が肖像画になった新千円札で町を挙げているいろいろ取り組まれていると聞いており、観光プラスこの北里柴三郎博士の相乗効果により一層町が盛り上がるのではないかと考えております。

今回この二つの柱にもう一つ柱を加えられるのではないかなって思います。

先日教育委員として学校拝見してる中で気づいたことがありましたので、話をさせていただければと思います。

7月に小学校にお邪魔したときに、デジタル教科書による授業を拝見させていただいてます。その際に放送大学の中川教授がお越しいただいて、授業と先生方の研修会を拝見させていただきましたが、その中に千葉県から学校の先生がお1人お見えになってました。こういうのが今後の町の活性化に役立つのではないかと考えました。なぜ、千葉県からわざわざ小国町に来たのか考えると、ICT教育の部分で千葉県の先生もかなり興味を持たれる部分があったのではないかと考えます。それをさらに伸ばしていくことによって、町の観光と北里柴三郎博士の2本の柱にICT教育を加えて進めていくことによって、より町が活性化するのではないかなと考えました。

こういった視察が増えることによって、例えば柴三郎博士、鍋ヶ滝を観光した後で食事等は摂られると思うんですが、なかなか宿泊までは至らないかと考えており、もう一つ何かあ

ったら、宿泊していただけるのではないかなと思う部分があります。例えばですけど、先生などの研修旅行があった場合、1日目は学校のICTの研修、2日目は観光及び北里柴三郎博士の記念館の見学とかいうような流れができれば、宿泊までしていただけるようになり、町の活性化につながっていくのかなと思います。また学校の先生が北里柴三郎記念館を視察することにより、修学旅行先にもなってくるのではないかなと思っております。

「事を処してパイオニアたれ、人に交わって恩を思え、そして叡智をもって実学の人として不屈の精神を貫け」と北里柴三郎博士が門下生の方に説いていたそうなのですが、現在はICT教育という大きなものを掲げて、非常に難しい部分もあるとは思いますが、この先生の言葉は、「事を処してパイオニアたれ」という部分を、我々は近道で頑張るということで捉え、こういったところが繋がっていくのではないかなと思っております。

渡邊町長に御理解いただいて、各子どもたちにタブレットを配付していただいたんですが、文部科学省が推奨しているGIGAスクール構想の一環ということだと思ってるんですが、GIGAスクール構想というのか、Global and Innovation Gateway for All っていう頭文字を並べた造語で、日本語にすると、「児童生徒にグローバルかつ革新的な扉を」ということなので、学力向上が基本であると思っております。ですので、町でICT教育に力をいれながら、学力向上のほうも引き続き、同様に頑張っていたくということが重要と思っております。以上が提案です。

この流れを踏まえて渡邊町長に御質問ですが、今までのICT教育の流れを今後どうかたちで持っていかれるのかという点と、麻生教育長の任期が9月末までだと聞いておまして、引き続きやっていただけるのか、まだビジョン等が変わるのか分からないのですが、選考についてどういった方にやっていきたいと思っているのかという2点をちょっとお尋ねできたらと思っております。

渡邊町長 私へということですね、概略として今までの流れを説明させていただきます。

先ほどご提案していただいた部分に関しましては、まずICT教育のことの研修に関しては、正直考えておりませんでした。私の中では、北里柴三郎博士が2024年に新千円札の顔になられるということで、今記念館の周りでは整備をしっかりとさせていただいて、約4億円を超える投資として有効な補助金を使いながら整備を進めてまいりたいというふうに思っております。それに付随して鍋ヶ滝で予約システムを導入しておりますので、実はその視察研修が、少し問合せ等々がある。それから、町のDXの推進の部分でプラテオというソフト使って、町のほうでは「防災関係のアプリ」を使っておりますけども、それでは全国のDX大賞をいただいておりますので、その部分での問合せもあったり、その他に地熱やSDGsだったりというところで、教育旅行や研修旅行の部分も今から取り組んでいきたいと、町の方針の中でも考えさせてもらっておりますし、先日、北里英郎先生が北里柴三郎記念館のほうに就任をされましたので、その部分では蒲島知事、それから副知事に御挨拶申し上げ、もちろん白石教育長にも御挨拶を差し上げました。その中で、町のほうでこういった方向で、北里柴三郎博士を中心に、鍋ヶ滝、SDGs、地熱発電も含めたところで、しっかりと教育の研修旅行の推進を進めていきたいという旨も、話しさせていただきましたので、町だけではなくて、県の協力をいただきながらその方面では推進させていただきたい。

また、ICT教育の部分に関しましてはどのようなかたちになるか分かりませんが、

教育委員会、それから両校長ともですね、しっかり話をしていきながら、まずは検討をさせていただこうかなというふうに思っております。それがICT教育の部分に関しまして、前木下局長の時からお願いしまして、人事もあまりは変えないような状態で2・3年間の間ICT教育の、もちろん機材の充実もそうですけれども、両校長先生それから教育長それぞれにもお願い申し上げて、今準備を進めている段階で、実装を同時に進めていかなければいけませんので、その部分では、学校運営関係も、非常に厳しかったかもしれませんが、それでも、国の流れから見てもあまり遅れることなく、デジタル関係の部分では進んでいるのではないかなというふうに思います。今後は、多数の現場サイドでの話は積み重なっておりませんが、私としては、DXの部分は必ず行政のDXそれから民間のDX教育のDX、そう考えても逃れることは出来ませんので、その部分では、国から実は人材を派遣していただきたいというところで、もう2年ほどお話をさせてもらっているんですが、今の状況の中で、できるだけ中央からの部分でDXを推進することによって、このような小国町のちょっと人材が足りないところ、そして広範囲のところを含めたところで、デジタル化から、暮らしの部分、例えば教育部分、生活分野、産業にとって、その切り替えがターニングポイントになるような段階というのをDXだというふうに私は思っておりますので、少し人材的に難しい部分はあるというふうに思っております。今の流れの中で、進めさせていただきたいと思っておりますけれども、やはりそこには、専門的な人材も必要ではないかなというふうに思っておりますので、今後も考えさせていただきたいと思っております。

それから教育長の件に関しましては、9月の議会のときに現教育長が続けられるのか、また次の方になられるのかの承認が必要です。やはり、人事の部分に関しましては、どうしても議会の承認を経るということが必要になってまいります。ただ、私としましては、今まで、麻生教育長が率先してやってこられたこの教育の部分の方向性について、今後、麻生教育長のままでやっていただくのか、また仮に次の方にしていただく場合も、同じような方向性でバランスがとれた教育をしっかりと担っていただきたいという思いは伝えていただきたいというふうに思っているところです。

狭間校長 ICT教育の重点化のことについて、委員さんのほうから心強い広い視野で提言いただきましてありがたく思っています。

ICT教育については、堺校長が強力に引っ張っていかれております。堺校長はなかなか御自身では言われませんので、私のほうから言わせていただきます。阿蘇郡の立ち位置はICT教育で県内でも頑張っているほうです。県内で特に先進地と言われるのが、高森町と山江村です。この2つが強力に今、県のリーダー役を果たしてくれております。また郡内では、高森町と産山村の存在が非常に大きくて、全国でもこの二つの町村がトップを走っていると言っても過言ではないです。今、小国町がやってるのは基礎の部分之急ピッチで力を注いでいるところです。もちろん費用がかかることですから、学校だけでできるのではなくて、教育委員会協力のなか、町のバックアップがあって初めてこうできるところなんです。そういった教育をすることで、人が集まるだろうということは間違いなく言えると思います。高森町が毎年10月に大きな研究発表会をされるんですが、それによっていろんな企業がそこに絡んできてます。そして毎年400～500人の人が集まって、当然その周辺の観光につながっていると思います。委員さんが言われたのは全くそのとお

りだと思っているところです。その中で、もう一つ小国町が誇るべきものはSDGsだと思わんですが、中学校に関しましても、昨年実は、大阪の枚方市にあります東海行政中学校がSDGs研修の一環で修学旅行とそのSDGsっていう取組を柱として設け、小国町にSDGsについて学びたいということで、その日課のなかで中学生と交流をしたいということで昨年お見えになりました。うちの中学生でも非常に有意義な時間を過ごしたんですが、実際そこで分かったのは、小国町の取組をもっと早く知っていたら、例えば地熱発電所とかも時間かけて学んだほうがよかったですねっていうことを言われてました。地熱発電や地熱を利用した調理とかそういうところを実際体験されると修学旅行としては、非常に面白い学びになるんじゃないかなっていうのを、学校側としては思ったところです。他にも、昨年は壱岐市の石田中学校とオンラインで交流をさせてもらったんですが、今年は12月の7日からですが、同じ壱岐市の勝本中学校とオンラインで交流会をすることにしています。勝本中学校は今年長崎県の情報教育の研究指定をうけて、その発表の機会に、ぜひ小国中学校に協力してほしいということで依頼があり、このオンライン交流会をすることにしています。小国のことを知っていただいて、先々こちらに来ていただけるきっかけになるのかと思ってるんです。実際その石田中学校、勝本中学校ですが今年修学旅行が中九州のほうに修学旅行に来るとということで、せっかくなら小国に来ませんかということで声掛けをしたところです。理想としては宿泊までを杖立などにたくさんホテルもありますし、SDGsなり、ICTで交流しながらそして、地域振興にもつなげていくっていうのは、非常に功を奏した視野の広い御提言と思った次第です。

田代委員 教育委員の田代といいます。お世話になっております。先生方には、個人的な意見も含め御相談したいことがあります。実は学校訪問や、授業参観を経験させていただく中で、タブレットの授業を見るときに、やはりどうしても、ワテンポを遅れて操作する子がいたり、難しい部分もあるっていう話をする子もいたりします。ほとんどの子はもう先生とほぼ同じタイミングで操作でき、いろんなことを成し遂げる子どもたちがほとんどなんですけども、どうしても得手不得手もあるのかなということで、先生たちも把握されてるとは思います。タブレット等のICT授業の進む中で、やはり人間的な部分、コミュニケーション能力も含めてですね、注意して進めていただければというふうに思っております。今でこそSDGsという言葉が制定されて、世界がそれに向かって努力しているわけですが、私が考えるには、今までこういう問題はなかったけども、こういう考え方も何十年前前から生活営みとしてあったいろんな取組は、社会情勢の変化でいろいろ変わってきて、やはりこれはいかんということで、昔ながらの生活が一番いいんじゃないかということで、制定されたんじゃないかなというふうに感じております。その部分を先生方に念頭に置いてほしいのですが、ほか学校の成績にとらわれることなく、小国の子どもの成績らしい、数字を残せるように努力していただけたら、私はそれでいいんじゃないかなと思っております。あとは、家庭や地域に任せていただければ、何とかあるんだからというふうに感じております。ぜひ、先生方については努力は100%されているとは思いますが、あまり御無理をせず、一生懸命子どもたちの将来を見守っていただけたらいいのかなというふうに思ってます。

狭間校長 いつも田代委員さんについては、温かく学校を支えていただいて私はもちろん職員も、

田代さんがいらっしゃると心待ちにしてるところがあります。現在タブレットの操作が不得手な生徒は確かにいます。そういう中で、生徒の実態調査を行い、スマートフォンや携帯を自分で自由に使える生徒が8割を超えます。使い方については、1日に4時間以上使っている子もいます。学校で1日過ごして、部活をして家に帰るのが7時過ぎ、そこから4時間以上どうやって使うのか不思議なのですが、相当眠る時間を削ってるのだらうと考えています。このような使い方の問題については、今後指導していく必要もあるとは思っていますが、一方でそういう子どもたちの、タブレットの操作能力はびっくりするぐらいすごいです。ただ、8割の子どもは携帯等を持っていますがそれ以外の子はそういう環境にないんです。そういう子どもたちは、確かにタブレットの操作にまごつくところもあります。ここについては、家庭の方針でそういった携帯等の機器類は中学校卒業するまで持たせたくないというふうな家庭が中学校の場合約20人近くおります。そういう家庭には、教育委員会、町の配慮で貸出しルーターを準備いただきました。万が一のときの家庭の配信、オンラインでの配信ができる環境を整えてもらったんですが、家庭との考えに差は確かにあって、そこについて、先ほど田代委員さんが話された地域、家庭での協力をしていくというところでは、これから学校としても頑張っていく必要があると思っております。それと同時に小国は非常に起伏に富んだ地形ですので、準備していただいたルーターでは電波が届かない場合もあります。家庭から寄せられた意見では、ドコモなら届くが、ソフトバンクでは電波が届かないという意見もいただきました。そういった環境面も含めて検討いただくことで、教育環境の更なる整備、地域全体として災害時にも強いまちづくりにつながっていくのかと思いますし、子どもたちのスキルの向上にも、そこはつなげていけるのかなというところでもあります。地域挙げて家庭の協力のもと、学校としても取り組んでいけたらなっていることは思っていることです。

閉 会

事務局：松本総務課課長補佐

会議に使用した資料一覧

1. 令和4年度年度第1回小国町総合教育会議次第
1. 令和4年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿
1. 第2次小国町教育大綱
1. 小国町総合教育会議設置要綱
1. 説明資料（小国町教育長・小国中学校長・小国小学校長）